

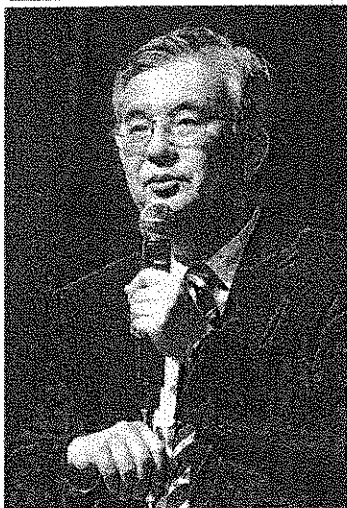
建設計画「実現したい」

山内氏(KEK機構長)が本県初講演

奥州・水沢

国際リニアコライダー(ILC)の本県誘致を目指す先端加速器科学技術推進シンポジウム2015 in 東北(いわてILC加速器科学推進会議など主催)は17日、奥州市水沢区の市文化会館で開かれた。高エネルギー加速器研究機構(KEK、茨城県つくば市)の山内正則機構長は4月の就任後初めて本県で講演し、「宇宙の謎を解明するためILCをぜひ日本に誘致したい」と建設実現に全力を挙げる姿勢を示した。

ILC 東北誘致



市民ら約800人が朝一々ではできない。参加。山内機構長は素粒子研究の分野で世界をリードする日本の現状を説明し、「大型加速器の建設や研究は一

その上で「宇宙の物理法則の研究を取りま

「日本の加速器研究の技術を生かし、ILC誘致をぜひ実現したい」と強調する山内正則機構長

議の増田寛也座長は「何より大事なものは国民の熱意と意志で、岩手が中心となり誘致実現への熱を高めてほしい」と呼び掛けた。

会場には学生席も設けられ、水沢商高2年の菅原大誠君は「海外から研究者らが移り住めば人口減少が改善される」と希望を持てた。

沿岸被災地への目配りも忘れてはならないと「思う」と全真的な効果の波及を期待した。

ILC誘致を検討する文部科学省の有識者会議は6月に取りまとめた中間報告で、日本政府の判断は2017、18年ごろになるとの見通しを示している。

山内氏の講演要旨

ILCだ。誘致をぜひ実現し、宇宙の謎を解明したい」と建設の意義を強調した。

ILCの創成と進化を解き明かす素粒子研究は、日本が世界をリードする分野だ。今年ノーベル物理学賞には素粒子研究者の梶田隆章氏が決まった。

今後解き明かすべき宇宙の謎は「質量の起源」「暗黒物質の正体」「宇宙から消えた反物質」「加速する宇宙膨張」の四つがある。

科学技術の分野では非常に大きな挑戦だ。

京一極集中が進む。地方経済を良くするだけでは不十分で、将来まで安心して生活でき、子どもを産み育てられ、学べる地域にしなければならぬ。

山下氏の講演要旨

国際設計チームが具体的な作業を進めている。関係各国の政府間の議論も一部始まっている」と説明した。

ILCは「建設場所」を目指すもの。「技術」が既にそろう、建設に向けて日本政府内での検討のほか関係各国の政府間の議論が一部始まっている。

ILCは「建設場所」を目指すもの。「技術」が既にそろう、建設に向けて日本政府内での検討のほか関係各国の政府間の議論が一部始まっている。

科学は人をつくり、挑戦意欲をつくる。それが新しい文化や技術となり、生活文明につながる。ILCを地域や日本全体、子どもたちの将来のために使っていくべきかを常に考えてほしい。

国の財政が厳しい中、政治決断のハードルは高い。東北がILCを頂点とする科学技術の集積地となる意識を整理し、隣接県ともス

増田氏の講演要旨

前知事で日本創成会議

ILCが日本にでざれば、アジア初の国際研究拠点になる。そこから新しい産業が生まれる。約1万人の研究者と家族が地域に住み、生活を共にする。日本は少子化や人口の東

ILCが日本にでざれば、アジア初の国際研究拠点になる。そこから新しい産業が生まれる。約1万人の研究者と家族が地域に住み、生活を共にする。日本は少子化や人口の東

ILCが日本にでざれば、アジア初の国際研究拠点になる。そこから新しい産業が生まれる。約1万人の研究者と家族が地域に住み、生活を共にする。日本は少子化や人口の東

ILCが日本にでざれば、アジア初の国際研究拠点になる。そこから新しい産業が生まれる。約1万人の研究者と家族が地域に住み、生活を共にする。日本は少子化や人口の東